



またやった。なぜノーヘル？ 車両基地でのイベントで安全配慮不足

3月24日（月）国府津の車両基地において一般のお客さま向けの「E655系なごみ」と記念ヘッドマークを装着した「E231系」「E233系」の100周年記念撮影会が行われた。

お客さまは100名規模で、50名50名のグループ分けをし、注意事項や規制線を張るなどの若干の注意は払われ行ったようだ。社員・グループ会社社員は危険が伴う構内歩行はヘルメット、安全チョッキの着用が義務付けられているため、イベント中も、しっかりと着用している。しかしながらお客さまには、私服で構内に立ち入らせている。頭上には1500ボルトの高圧電流が流れており、構内歩行は足元が悪く転倒することもしばしばある。転倒すれば周囲は石と鉄の塊ばかりだ。注意事項には「お客さまの不注意などによる事故・怪我並びに衣服や携行品などの損壊・汚損・紛失については、責任を負いかねます。」とあるが、お客さまの安全に配慮する義務があるのではないだろうか。規制線を張ったことは評価できるが、お客さまにも、せめて撮影時以外はヘルメット、安全チョッキを着用するよう準備しておくべきではないだろうか？

以前、京浜東北線の営業列車から私服の子供が乗務員室から顔を出していると乗務員間でざわつく騒ぎとなった事象があった。我々が会社に指摘し以降、関係各所への連絡とヘルメット、安全チョッキの着用が徹底されていた。しかしまた安全の配慮が全く足りない事象を繰り返した。

様々な企業において工場見学のイベントは盛んに行われている。しかしどこの企業においても工場内に立ち入る際は、ヘルメットを着用する。なぜJR東日本は安全に対する一般常識が欠如してしまうのか。

経営陣から盛んに言われる「1円でも稼ぐ」、この精神が乗務員職場に定着したことに問題があるのではないだろうか？

委員会活動という企画業務を現場に権限移譲させ、乗務員なら乗務前に早く出勤し超過勤務で作業するか、乗務終了後に帰らずに超過勤務で作業する「乗務の片手間」でやっている。ミスなく乗務することは評価されず、「当たり前」。評価されるには委員会活動をするしかない。昇進したい。希望箇所へ転動したい。評価されずにジョブローテーションで強制配置転換だけは避けたいと、特に若手は様々な思いで委員会活動をしている。会社の利益になるイベントを企画することが手っ取り早いのだろう。

100名分のヘルメットと安全チョッキ。安全の確保にはお金と手間がかかる。安全と目先の利益が共存することは難しいのかもしれない。せめて乗務員職場は、安全側に比重をおくべきだ。

「安全」がJR東日本の安定した経営に繋がることは間違いない